

「言葉の院外処方箋」

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

第 86 回

『悩みを「解消」する ～ 人生の意味を確認する ～』

2021年12月4日午前中 早稲田大学エクステンションセンター中野校での講座『人間の探求 ～ がんと生きる哲学 ～』に赴いた。教科書『楕円形のころろ ～ がん哲学エッセンス ～』（春秋社）を音読しながら進めた。今回は、「がんの姿」、「がん哲学の誕生」、「『「がん哲学外来」の使命 1：悩みを「解消」する 2：人生の意味を確認する』の箇所であった。格調高い品性ある質問が多数あり、大変貴重な時であった。また、「中野四季の森公園」のレストランでのランチも、大変有意義であった。この度、『早稲田大学エクステンションセンター中野校の「助さん & 格さん」』が誕生した。『個性と多様性』の実践であろう！

『「人生は開いた扇」のようである。人生における出会いは、出会った時に受ける影響だけに留まらず、20～30年後に影響してくることがある。良い出会いであっても環境が整わないと大成しない。正常細胞は、「使命を自覚して任務を確実に果たす。自己制御と犠牲の上で 生きている細胞」であるが、がん細胞は「この目標を見失って、増殖することに長けた細胞に変貌している」ということである。「古き歴史と日新の科学」を踏まえて、次世代の新しい精神性として 改めて問い直す時代到来である。人間の尊厳に徹した医学・医療の在り方を考え、「学問的、科学的な責任」と「人間的な責任」で、「新鮮なインパクトを与える」』ことが、講座『人間の探求 ～ がんと生きる哲学 ～』の目的である。

2021年12月5日（日）13：00～16：00 Zoomによるオンライン研修「第4回がん哲学外来市民学会認定コーディネーターアドバンスコース」に参加した（主催：がん哲学外来市民学会、担当カフェ：北陸地区がん哲学外来）。総合司会：金沢がん哲学外来事務局長・金沢大学公衆衛生在宅看護学准教授 岡本理恵 先生のもと、開会挨拶：福井県済生会病院 副院長・集学的がん診療センター長 宗本義則 先生、ガイダンス：認定コーディネーターの役割：東海大学医学部血液・腫瘍内科教授 安藤潔 先生、講義「生と死を考える」：金沢がん哲学外来

代表、金沢大学附属病院緩和ケアセンター長 山田圭輔 先生 プレゼンター：
北野病院緩和ケア科 梶山徹 先生、佐久総合病院地域ケア科 北澤彰浩 先生、
神戸薬科大学総合教育研究センター 横山郁子 先生、意見交換会：グループワ
ーク のプログラムであった。筆者は、「がん哲学外来 理事長・がん哲学外来
市民学会 代表」として、「研修会講評」の機会が与えられた。早速、岡本理
恵 先生から「本日はありがとうございました。Web開催の不安もありましたが、
皆様のご協力のおかげでなんとか無事に終えることができました。先生の講評
をお聞きして 初心に帰らねばと 身が引き締められました！」と心温まるメール
が届いた。

単行本『がん哲学外来コーディネーター』（発行：みみずく舎、発売：医学評論
社、2013年）も紹介されていた（画像）。{【【実践編】では、コーディネータ
ー設置のいきさつや その意義、具体的な活動事例を紹介しながら、現代の医療
や社会に内在する問題や、患者・家族をはじめ当事者が 真に求めていることと
は何かを考察。【理論編】では、日本のがんの現状(統計, 国としての対策, 主要
ながんの概要)をわかりやすく解説。}と記載されている。まさに、時代的要請
であろう！

